

名古屋観世会

定例公演能

平成三十年二月十一日(月・祝)

12時30分開演
(11時30分開場)

平成30年度のご案内 (年3回の上演になります)

SS席年間特別指定席券	35,000円
S席年間指定席券	25,000円
年間自由席券	15,000円
当日指定席券	8,500円
当日自由席券	6,000円
学生券(自由席)	2,500円

※自由席券は、各回共通、
1回に何枚でもご使用になります。

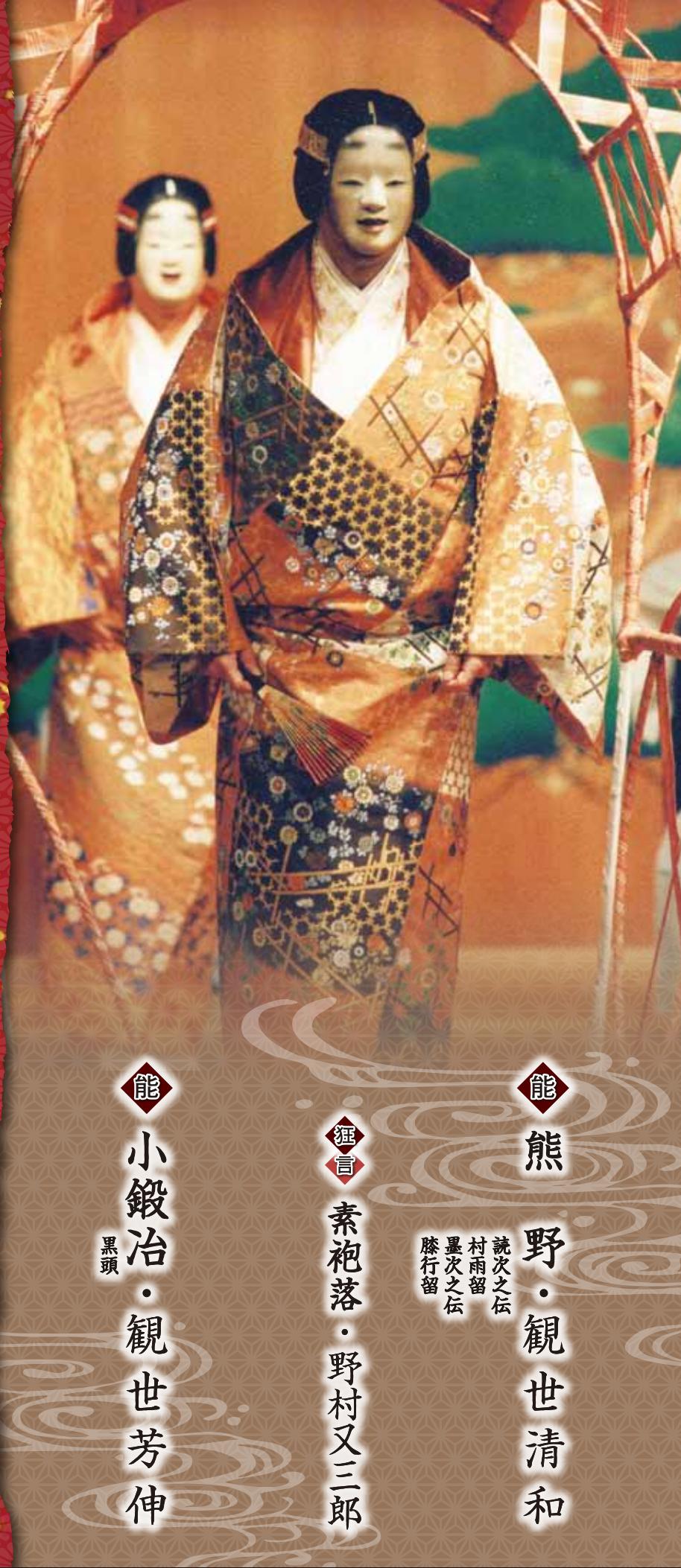
指定席券を指定日にご利用できなかった場合、
年度内ならば何時でも、自由席券としてご使用
できます。その時は必ず受付にて当日券に変更
してください。

※自由席満席の場合はご容赦ください。

お知らせ

すでにご購入済みの「年間チケット」を
上位席に変更できます。

- S席→SS席に変更の場合 差額 3,750円
- 年間自由席→S席に変更の場合 差額 3,000円
- 年間自由席→SS席に変更の場合 差額 7,000円



能
小鍛治・観世芳伸
黒頭

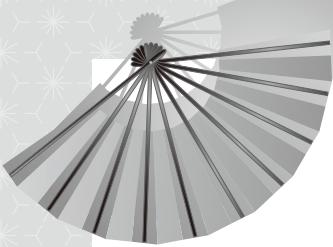
狂言
素袍落・野村又三郎

能
熊
野・観世清和
読次之伝
村雨留
墨次之伝
膝行留

お問い合わせ

名古屋観世会事務所(久田勘鶴方)
〒465-0093 名古屋市名東区一社3-162

TEL(052)734-6192
FAX(052)705-1585



能

小鍛治

観世芳伸
黒頭
間

高安勝久
帽元正樹
野口隆行
後見 坂口貴信
山階彌右衛門

吉沢
八神孝充
本田幸親
松山幸親
河村真之介
太鼓 後藤嘉津幸
笛 地謡
太鼓 河村真之介
大鼓 後藤嘉津幸
笛 地謡
太鼓 加藤洋輝
笛 地謡
吉沢 旭
久田勘鷗
武田宗和
加賀敏彦
大野誠
名古屋 駅

(四時頃終了予定)

能楽手帖 権藤芳一より

狂言

素袍落

仕舞

國小東老梅

栖塩北松
祖父江修一
今沢美和
近藤幸枝
清沢一政
地謡
大槻文蔵
河村真之介
太鼓 後藤嘉津幸
笛 地謡
太鼓 加藤洋輝
笛 地謡
吉沢 旭
久田勘鷗
武田宗和
加賀敏彦
大野誠
名古屋 駅

休憩十五分

狂言

熊野

坂口貴信
観世清和
読次之伝
村雨留
墨次之伝
膝行留

福王茂十郎
喜多雅人
後見 上田公威
武田宗和

大鼓 河村総一郎
大倉源次郎
地謡
松山幸親
山中雅志
大槻文蔵
久保信一朗
久田勘鷗
地謡
野村又三郎
松田高義
野口隆行
地謡
八神孝充
山階彌右衛門
大槻文蔵
久田勘鷗
地謡
河村総一郎
大倉源次郎
地謡
松山幸親
山中雅志
大槻文蔵
久田勘鷗
地謡
野村信朗
松田高義
野口隆行
地謡
祖父江修一
今沢美和
近藤幸枝
清沢一政
地謡
大槻文蔵
河村真之介
太鼓 後藤嘉津幸
笛 地謡
太鼓 加藤洋輝
笛 地謡
吉沢 旭
久田勘鷗
武田宗和
加賀敏彦
大野誠
名古屋 駅

能番組

番

組

◆熊野(ゆや)

【あらすじ】平宗盛は、遠江国（静岡県）の池田の宿の長の熊野を愛妾として都に長く留めています。その熊野が故郷に残している老母が、病氣となり、熊野の帰國を促す手紙を、侍女の朝顔がたずさえて、都へ上つて来ます。心弱くなっている母の様子に、熊野は宗盛のもとに行き、その手紙を見せて、暇を乞うことになります。熊野は朝顔をつれて、宗盛の邸へ行き、彼の前で老母の手紙を読み上げ、いま一度母に会いたいと帰国を願いますが、許されません。宗盛はかえって、熊野の心を引き立てようと、花見の供を命じ、牛車に乗って一緒に清水寺へ向かいます。都大路の春景色にひきかえ、車中の熊野は、ひたすら母を案じ、清水へ着いて車を降りると、ます観世音に母の命を祈ります。やがて、花の下で酒宴が始まり、熊野は宗盛の勧めで、心ならずも、興を添るために、あたりの風物を眺めながら舞をまい、花の美しさをたたえます。ところが舞の途中で、にわかに村雨が降り出し、花を散らします。熊野は舞をやめ「いかにせん都の春も惜しけれど、馴れし東の花や散るらん」と一首の歌を詠み、それを短冊にしたためて、宗盛に差し出します。その歌を詠んだ宗盛は、さすがに熊野の心を哀れと思い、東国へ帰ることを許します。熊野は喜び、「これも観世音のおかげと感謝し、またもや宗盛の気持の変わらぬうちに」と、その場から故郷へと急ぎます。

◆小鍛治(こかじ)

【あらすじ】一条帝がある夜不思議な夢を見られたので、橘道成を勅使として、当時名工として有名な三条ノ小鍛治宗近に、御剣を打つことを命ぜられます。宗近は宣旨を承りはしたもの、すぐれた相槌の者がいないので途方にくれ、この上は奇特を頼むほかはないとの、氏神である稻荷明神へ祈願のために出かけます。すると、一人の童子が現れ、不思議にもすでに勅命を知つており、君の恵みによって御剣は必ず成功すると安心させます。そして、和漢の銘剣の威徳や故事を述べ、特に日本武尊の草薙劍の物語を詳しく語つて聞かせ、神通力によつて、力を貸し与えようといつて、稻荷山へ消えゆきます。『中入』宗近は、七五三綱を張つた壇をしらえ仕度を調べて、祝詞を唱えて待ちかまえます。すると、稻荷明神の使わしめの狐が出現し、相槌となつて御剣を打ち上げ、表に小鍛治宗近、裏に小狐と銘を入れ、勅使に捧げると、再び稻荷山へと帰つて行きます。

◆御案内

平成30年 古例観世公演会定

6月10日(日) 野村四郎 観世錆之丞

隅田川漕 阿瀬

11月11日(日) 梅若玄祥 久田勘鷗

頬政 葵 上空之新

ご都合に依り曲目、出演者に変更があるかも知れませんが予めご承知下さい。

携帯電話及び時計のアラーム等はあらかじめ電源をお切り下さい。
「演能中はお静かに又演能中の出入りはなるべく遠慮下さい。
「幼児の入場は勝手乍らお断り致します。
「演終了後の拍手は、シテが幕に入ります迄御遠慮頂ければ幸甚に存じます。



名古屋能楽堂

〒460-0001 名古屋市中区三ノ丸一丁目1番1号

TEL.052-231-0088

FAX.052-231-8756
<http://www.bunka758.or.jp/>